

# 事業名：SAGE JAPAN

## 1. 事業の目的

本事業は高校生が大学生のサポートを受けながら、SDGs の観点から地域や社会の課題解決のためのプロジェクトを考案・実践するためのプログラムです。この事業は本学の宮崎猛研究室が担っており、運営は大学生によって行われています。

## 2. SAGE JAPAN

SAGE JAPAN は 2013 年に教育学部宮崎猛研究室の学生によって立ち上げられました。現在は同研究室の学生を中心に早稲田大や文京学院大の学生も参加しています。

SAGE(Students for the Advancement of the Global Entrepreneurship)は、2002 年にアメリカで設立された国際的な教育プログラムで世界約 30 カ国で展開されています。研究室の学生はこのプログラムに修正を加え、教育的意義をより強調した独自のプログラムとして SAGE JAPAN を設立しました。約 80 頁のワークブックも作成され、高校生ならびに大学生に活用されています。毎年 3 月には東京都教育委員会の後援などを得て、SAGE JAPAN CUP を開催し、高校生がそれぞれ取り組んできたプロジェクトを披露しています。2016 年からは優勝チームを世界大会に送り出し、2019 年 8 月にサンフランシスコで行われた世界大会では日本代表チームが第 3 位入賞ならびに二つの SDGs 賞を獲得するに至っています。

## 3. SAGE JAPAN 設立の意義

設立した理由は以下の 3 つです。

第一に問題解決力、チャレンジ精神、イノベーション力の育成の機会ならびに高大連携のプログラムの提供です。いずれも今日

その重要性が指摘されていますが、具体的な実践としては多くは見られません。そこで、SAGE JAPAN を通してそれらの機会を提供しようと考えました。

第 2 に参加者全員の学びのコミュニティの創造です。SAGE JAPAN では高校生だけではなく、それを支援する大学生(大学生サポーター)や運営する大学生(研究室学生)も問題解決力、社会貢献力、提案力、創造力等の社会人基礎力や起業家精神を身につけることができると考えました。

第 3 に創価教育学の具現化です。研究室の学生が SAGE を再解釈するにあたって着目したのが牧口常三郎による創価教育学体系です。そこで提唱されている「人道的競争」を私たちは「いかに人類に幸福をもたらすかの競争」と捉え、互いに社会貢献を競い合う SAGE JAPAN を教育による世界平和を目指す取り組みとしていこうと考えました。

## 4. SAGE JAPAN CUP

毎年、3 月に SAGE JAPAN CUP を開催しています。大会では、高校生が約半年間、大学生と協力して考案・実践してきたプロジェクトの成果を発表します。高校生は自分たちの問題関心のもと、思い思いの社会貢献プロジェクトを披露しています。



## 事業名：SAGE JAPAN

審査は社会の第一線で活躍しており、企業の社会貢献事業や起業に携わってきた方によって行われます。審査項目には、テーマ設定の妥当性やプレゼンテーション能力、更にはSDGsとの関連性など、プロジェクトに社会的影響力があるのかが評価の対象になります。第1位のチームには世界大会出場権が授与されます。

### 5. 第6回 SAGE JAPAN CUP

第6回 SAGE JAPAN CUP は2019年3月24日(日)、紀伊國屋サザンシアターで開催され、7チームが参加しました。約250名の聴衆の前で高校生は立派に発表をやり遂げました。また、創価大学「ヴォーカルグループ」「D.I.CREW」が友情出演し、歌やダンスで、会場を盛り上げてくれました。審査結果は以下のようでした。

#### 〈第1位〉

発表者：「if」(都立国際高等学校)

発表内容：ボルネオの森林伐採という環境破壊や日本の林業衰退の要因には、消費者の意識があるとして責任ある消費への意識を広げるワークショップ等を開催。



写真：World Cup (サンフランシスコ)

#### 〈第2位〉

発表者：「HALU」(都立両国高等学校)

発表内容：被災地における睡眠の質の低下に着目し、顔を覆う形のスリープボックス

という商品を開発。

〈審査員特別賞〉

発表者：「The Hungry」(文京学院大学女子高等学校)

発表内容：冷蔵庫に余っている保冷剤に着目し、保冷剤を消臭剤に作り変えることで無駄を排す新たな活用方法を考案。



〈会場賞〉

発表者：「Permute」(豊南高等学校)

発表内容：部活のメニューを学校間でシェアすることで、学校の先生の負担を軽減するアプリを開発。

また、それぞれの高校生チームのサポートにあたってきた大学生からも健闘を称える表彰が各チームに行われ、感動の場面となりました。第6回大会の審査は、以下の方々に協力を仰ぎました。

- ・審査委員長 伊藤芳明様
- ・審査委員

甲賀聖士様、堤香苗様、中村三音夫様、細淵様信子様、山口真広様

